

地域全体で取り組む性の健康教育の試み

中村智子、町田和世、児玉佳誉子、清水由佳、羽田桂子、竹内夏江、帯刀敦美（長野市保健所健康課）

要旨：健康で生き活きとした「生」の営みに、深く関係する「性」の健康。しかし、子どもも大人も、性を体系的に学ぶ場が保障されているとは言い難い現状である。長野市の10代の人工妊娠中絶率が国平均に比べて高値であることや、HIV感染・エイズ患者発生率（人口比）も高いという現状を踏まえ、様々な年齢層の人々と接する地域の保健所という利点を活かして、性の健康教育の取り組みができるのではないかと考え、一昨年から活動を始めたので、その経過を報告する。

キーワード：性の健康教育、保健所機能と市町村機能の二面性、つながる

A. 目的

地域全体で取り組む性の健康教育の実現に向けて、中核市保健所の利点を活かして活動してきたことについて分析し、今後の活動を考える。

B. 方法

① 長野市保健所健康課「性の健康教育プロジェクト」活動内容の検討

※プロジェクト構成員／思春期保健担当保健師・感染症対策担当保健師・保健センター保健師

② 「性の健康絵本」活用方法の検討

③ 小中学校養護教諭や保育園保育士とともに性の健康教育をすすめる方法の検討

④ 民間組織「HIV・エイズネットながの」との協働による活動の検討

C. 結果

①性の健康教育プロジェクト活動内容の検討

年度	メンバー ／回数	内 容
H17	保健師 6名 ／7回	●長野市の性の健康に関する統計●性の健康教育推進のための計画作成●性の健康講話用パワーポイント作成●性の健康リーフレット「大切な体・生・性」作成●出前講座11校
H18	保健師 6名 ／7回	●「性の健康リーフレット」及び「性の健康絵本」の保健センター配備●管内研修会のテーマに「乳幼児の性の相談」

		をとり上げる●管内研修会でプロジェクトの活動を発表●保健センター保健師のピアカウンセラー養成講座見学●出前講座23校
H19	保健師 6名 ／7回	●モデル保健センターの乳児教室で「性の健康絵本」を紹介●管内研修会のテーマに「男の子の性の健康」をとり上げる●市内養護教諭部会との合同会議開催（出前講座の検討）（H19.6現在）

②「性の健康絵本」活用方法の検討

「赤ちゃんはどこから生まれてくるの」という子どもたちの質問に、たじろがず嬉々として話せる大人を増やしていくことが性の健康のベースを引き上げることになるという視点で、保健センターで絵本を活用し始めた。

	活用方法	課 題
H18	●市内12ヶ所の保健センターに「性の健康絵本」を置き、乳幼児健診の待ち時間に保護者が閲覧	●「何でこのような本を置くのか」という苦情（1件）●絵本にメッセージを添付するのみでなく、保健師が説明してから閲覧した方がよいのではないか

H 19	<p>●保健センター（試行的に3センター）の「7～8か月児健康教室」で、保健師が絵本の紹介をしてから閲覧する</p>	<p>●試行3保健センターの反応をみて、全保健センターに広げる</p>
---------	--	-------------------------------------

※性の健康絵本／「せつくすのえほん」「おちんちんのはなし」「うちにあかちゃんがうまれるの」等／各絵本に閲覧のねらいと、保護者へのメッセージを添付した

③ 小中学校養護教諭や保育園保育士とともに考える性の健康教育の検討

当保健所では、平成16年度から小中高校向けの出前講座を実施しているが、単発の講座でどこまで伝えられるかに疑問が出て来ていた。

そこで、今年6月に市内小中学校養護教諭部会とプロジェクトの合同会議を持ち、教師側の研修の機会を増やすことの必要性和、保健所の専門性を活かした出前講座内容が生徒だけでなく教師にも参考になるという点を確認し合った。

また、保育園から園児の性に関する相談を受けたプロジェクトメンバーが、保育園に出向いて対応を一緒に考えたことが、園での性の絵本活用に発展した例もあった。

④ 民間組織「HIV・エイズネットながの」との協働による活動の検討

性の健康を考える際には、エイズ・性感染症予防が重要である。当保健所での毎年のHIV検査者数は順調に増えているが、「検査を受けることはいいことだ」「エイズは誰かの問題ではなく、共に生きる自分たちのものである」という理解が深まらないと、検査を受けることの敷居が高いまま、必要な人が検査を受けづらい状況が続き、予防啓発が広まらないのではないかと意見が出ていた。

そんな折、昨年6月に市内外有識者による民間組織「HIV・エイズネットながの」が立ち上がった。この民間組織と

保健所が、お互いの短所を補い合う形で協働することにより、行政の取り組みでは啓発が届きにくい領域に対して、活動を広めることができた。

民間組織との協働による活動
●休日検査実施（3回／97名受検）
●HIV陽性者を招いて、HIV・エイズ理解を深めるためのセミナーを開催（30名参加）
●HIV検査普及カードの配付を、職域代表者を通して職域連絡ラインを使って行う
●市が行う定例記者会見とは別に、報道機関との合同会議を持ち、HIV・エイズ関係報道を、単発の情報提供に終わらせずに、研究して継続的に取り上げていこうと話し合う

D. 考察

どの職域においても、普段行っていない取り組み（業務）を始め、それを推進することは簡単なことではない。しかし、その取り組みの基となる人材やその動きを注意深く探してコーディネートすることで、形になってくることがある。

長野市保健所における「性の健康教育」の取り組みは、①プロジェクトという形で職員がつながり②保健所と住民サービスの先端である保健センターがつながり③保健所と保育園・学校・民間組織がつながるといように、人や組織とのつながりを広げながらすすんできた。

今後、保健師が地域保健活動で事務局の役割を担っている保健補導員会とのつながりを活かして、地域の成人層に対して性の現状を伝えるなどの活動も加え、点でなく面を広げる視点ですすめていきたい。

※保健補導員会／市内全域（30行政区）に組織され、行政と協働して地域住民の健康づくりを実践している団体

